

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	E S A音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養 専門課程	吹奏楽学科 管楽器リペアコース 管楽器リペア選択 (2年制)	夜・通信	1,368時間	80×2 =160時間	
	吹奏楽学科 管楽器リペアコース リペア留学選択 (2年制)	夜・通信	1,080時間	80×2 =160時間	
	吹奏楽学科 吹奏楽コース 公務員音楽隊受験選択 音楽留学選択 (2年制)	夜・通信	936時間	80×2 =160時間	
	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース 管楽器リペア選択 (1年制)	夜・通信	684時間	80×1 =80時間	
	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース リペア留学選択 (1年制)	夜・通信	540時間	80×1 =80時間	
	吹奏楽実務学科 吹奏楽コース 公務員音楽隊受験選択 音楽留学選択 (1年制)	夜・通信	468時間	80×1 =80時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://yashima.ac.jp/esa-music/information

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	E S A音楽学院専門学校
設置者名	学校法人 八洲学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開している https://yashima.ac.jp/?page_id=44

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員 (1987.4.1~)	令和3年6月14日 ~ 令和11年度の定時評 議員会の終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員 (1998.4.1~)	令和3年6月14日 ~ 令和11年度の定時評 議員会の終結の時	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	E S A 音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>吹奏楽学科(2年制)、吹奏楽実務学科(1年制)</p> <p>【作成に係る取組み】</p> <p>講義科目については教材となっている書籍を元に全員が到達目標に到達できるよう授業を計画しており、内容の修得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に確認小テストが行われる。科目の中には演習や実習を伴う科目もあり、それらに関しては個々の修得度・進捗度に合わせて進められるよう計画をしている。</p> <p>演習科目については、実習科目と関連性の高い科目については実習科目の授業計画と連動するよう授業を計画している。それ以外の演習科目については到達目標に全員が到達できるようテキスト学習及び演習の授業を行う計画している。内容の習得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に適宜確認小テスト等が行われる。</p> <p>実習科目については、多くの科目が個別指導となっており、到達目標に全員が到達できるよう生徒それぞれ個別もしくはグループ別に授業を行う計画している。個々の習得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に適宜行われる確認小テスト等の結果・演奏会等の参加が評価に加味される。</p> <p>毎年各教科担当教員と内容の見直しを行っている。</p> <p>【公表に係る取組み】</p> <p>作成したシラバスは、教務・教頭・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。同月に実施されるガイダンスの際に生徒に公表を周知。</p>	
授業計画書の公表方法	https://yashima.ac.jp/esa-music/information
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

履修認定に関しては、客観的・厳格かつ厳正に判定される

- ・出席率
- ・筆記試験（確認小テスト）
- ・実技試験

の総合評価により評価認定の可否が行われる。

科目によって実施される試験の種類や時期が異なるため、各シラバスに掲載している。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

出席率・筆記試験・実技試験

評価	出席率	筆記試験	実技試験
A	100～90	100～90	100～85
B	89～80	89～80	84～75
C	79～70	79～70	74～65
D	69～60	69～60	64～
E	59～	59～	未受験

各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。

それぞれの点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。

E評価の履修は認定しない。

G P A算出方法

上記の成績評価基準に基づいた成績評価に応じた各科目のG Pを各科目の履修時間を乗算し、その合計を履修科目全履修時間で除算。（小数点第二位四捨五入）

成績評価基準に基づいた成績評価に応じたG P表

成績評価	G P
A	4.0
B	3.0
C	2.0
D	1.0
E（不可）	0.0

上記算出方法によりG P Aを算出している。

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://yashima.ac.jp/esa-music/wp-content/uploads/2024/07/%EF%BC%A5%EF%BC%B3%EF%BC%A1%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E5%AD%A6%E9%99%A2%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AD%A6%E6%A0%A1%EF%BC%A7%EF%BC%B0%EF%BC%A1%E5%88%B6%E5%BA%A6%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6%EF%BC%882019%E5%B9%B45%E6%9C%88%E7%89%88%EF%BC%89.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則第17条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第18条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://yashima.ac.jp/esa-music/wp-content/uploads/2024/07/evaluation-criteria.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	E S A音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://yashima.ac.jp/?page_id=563
収支計算書又は損益計算書	https://yashima.ac.jp/?page_id=563
財産目録	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
事業報告書	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
監事による監査報告（書）	https://yashima.ac.jp/?page_id=38

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	吹奏楽学科 管楽器リペアコース 管楽器リペア選択 (2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2,268 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年			612 単位時間 /単位	1,152 単位時間 /単位	504 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人の内数		36人	1人	3人	20人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。</p> <p>管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>科目の評価対象（出席率・筆記試験・実技試験）についてはシラバスに掲載している。出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に出席率</p>

<p>A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下 実技試験・筆記試験 A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下の5段階とする。 項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。 E評価科目の履修は認定しない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要) ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) 入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	8人 (57.1%)	5人 (35.8 %)
(主な就職、業界等) 小阪楽器・島村楽器・コダマガキ・ウィンドスタイ 他一般職			
(就職指導内容) 面接指導、入社試験に必要な楽器演奏指導 ・就活支援研修実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 管楽器リペア技術習得			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	4人	10.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談。保護者との連携。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	吹奏楽学科 管楽器リペアコース リペア留学選択 (2年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間/単位	900 単位時間/単位	864 単位時間/単位	504 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人の内数		2人	0人	3人	20人	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。 シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。</p> <p>管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。 リペア留学選択者はリペア技術修得と合わせてフランス語の修得も行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>科目の評価対象 (出席率・筆記試験・実技試験) についてはシラバスに掲載している。出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に</p> <p>出席率 A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下</p> <p>実技試験・筆記試験 A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下の5段階とする。 項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。 E評価科目の履修は認定しない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生なし			
(就職指導内容) 面接指導、入社試験に必要な楽器演奏指導・就活支援研修実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 管楽器リペア技術習得・フランス語			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談。保護者との連携。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化教養専門課程	吹奏楽学科 吹奏楽コース 公務員音楽隊受験選択 音楽留学選択 (2年制)	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間/単位	540 単位時間/単位	1,060 単位時間/単位	648 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70人の内数	1人	0人	2人	23人	25人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。</p> <p>シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。</p> <p>公務員音楽隊受験選択者は演奏を職業とする事を目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。</p> <p>公務員選択者は公務員試験合格を目指す科目の修得も合わせて行う。</p> <p>留学選択者は演奏技術・演奏実技の習得とフランス語の修得を合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>科目の評価対象（出席率・筆記試験・実技試験）についてはシラバスに掲載している。</p> <p>出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に出席率</p> <p>A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下</p> <p>実技試験・筆記試験</p> <p>A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下</p> <p>の5段階とする。</p> <p>項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。</p> <p>E評価科目の履修は認定しない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、演奏個別レッスンを行っている。</p> <p>入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	1人 (50%)	1人 (50%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>消防音楽隊</p>			

(就職指導内容) 面接指導、・就活支援研修実施
(主な学修成果(資格・検定等)) 公務員音楽隊受験選択・公務員試験 音楽留学選択・フランス語
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	1人	25%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談。保護者との連携。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養		文化教養専門課程	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース 管楽器リペア選択 (1年制)					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
	昼	1,134 単位時間/単位		講義	演習	実習	実験	実技
1年				306 単位時間/単位	540 単位時間/単位	288 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
				単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人の内数		0人	0人	3人	20人	23人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。 各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。 シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。 管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。 技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。 成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>科目の評価対象（出席率・筆記試験・実技試験）についてはシラバスに掲載している。 出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に 出席率 A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下 実技試験・筆記試験 A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下 の5段階とする。 項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。 E評価科目の履修は認定しない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生なし			
(就職指導内容) 面接指導、・就活支援研修実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 管楽器リペア技術習得			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組)
定期的な個人面談。保護者との連携。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース リペア留学選択 (1年制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,134 単位時間/単位	450 単位時間 /単位	396 単位時間 /単位	288 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人の内数	0人	0人	3人	20人	23人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。 シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。</p> <p>管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。</p> <p>リペア留学選択者はリペア技術修得と合わせてフランス語の修得も行う。 技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>科目の評価対象 (出席率・筆記試験・実技試験) についてはシラバスに掲載している。 出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に 出席率 A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下 実技試験・筆記試験 A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下の5段階とする。 項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。 E評価科目の履修は認定しない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>

学修支援等 (概要) 入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生なし			
(就職指導内容) 面接指導、・就活支援研修実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 管楽器リペア技術習得 ・ フランス語			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談。保護者との連携。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養	文化教養専門課程	吹奏楽実務学科 吹奏楽コース 公務員音楽隊受験選択 音楽留学選択 (1年制)				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,134 単位時間/単位	開設している授業の種類			
	昼		講義	演習	実習	実験
1年		270 単位時間/単位	540 単位時間/単位	324 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
単位時間/単位						
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人の内数	1人	0人	2人	23人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>シラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月インターネットホームページに公開。各科目の担当教員により、シラバスを元に授業が進められている。シラバスには 授業内容・到達目標・授業形態・授業回数とスケジュール・成績評価方法を記載している。</p> <p>演奏を職業とすることを目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。公務員選択者は公務員試験合格を目指す科目の修得も併せて行う。留学選択者は演奏技術・演奏実技の習得とフランス語の修得を合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>科目の評価対象（出席率・筆記試験・実技試験）についてはシラバスに掲載している。出席は出席率、筆記試験及び実技試験は前期末後期末試験の点数を元に出席率</p> <p>A評価100%-90% B評価89%-80% C評価79%-70% D評価69%-60% E評価59%以下</p> <p>実技試験・筆記試験</p> <p>A評価100点-90点 B評価89点-80点 C評価79点-70点 D評価69点-60点 E評価59点以下</p> <p>の5段階とする。</p> <p>項目の点数を加算し、項目数で除算した点数を評価対象としている。</p> <p>E評価科目の履修は認定しない。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 ・前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。</p> <p>入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生なし			

(就職指導内容) 面接指導、・就活支援研修実施
(主な学修成果(資格・検定等)) 公務員音楽隊受験選択・公務員試験 音楽留学選択・フランス語
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談。保護者との連携。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
吹奏楽学科 (2年制)	200,000円	780,000円	590,000円	教材費(入学時のみ) ・管楽器リペアコース 約250,000円 ・吹奏楽コース 約100,000円
吹奏楽実務学科 (1年制)	200,000円	780,000円	590,000円	教材費(入学時のみ) ・管楽器リペアコース 約250,000円 ・吹奏楽コース 約100,000円
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yashima.ac.jp/esa-music/school-evaluation
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)

(主な評価項目) 「教育理念・目的、育成人材像」「学校運営」「教育活動」「学修成果」「学生支援」 「教育環境」「学生の募集と受入」「財務」「法令等の遵守」「社会貢献・地域貢献」 同窓会会長、卒業生の管楽器リペア業界関係者、音楽隊業界関係者で組織された学校関係者評価委員会によって教育内容等を		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
総合楽器店	2020年4月1日～ 2026年3月31日 (任期更新)	同窓会会長
管楽器修理工房	2020年4月1日～ 2026年3月31日 (任期更新)	卒業生の業界関係者
公務員音楽隊	2024年4月1日～ 2026年3月31日 (新規就任)	音楽隊業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yashima.ac.jp/esa-music/school-evaluation		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.esa-music.com/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「一」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310002191
学校名 (〇〇大学 等)	E S A 音楽学院専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人八洲学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		一人 (0) 人	一人 (0) 人	一人 (0) 人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	一人	0人	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				一人 (0) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	一人	一人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	人	前半期	後半期	0人
				0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	一人	一人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。